

育成会が解散届け

法人格返上 任意団体として再起へ

知的障害者の親などで構成する社会福

祉法人「全日本手をつなぐ育成会」（久保厚子理事長）が62年の歴史に幕を閉じた。5月末で職員を全員解雇し、6月18日に東京都へ解散の届け出を提出。今後は任意団体の連合会として久保氏が会長に就き、各地の育成会が機能を分担しながら活動を続けるという。久保氏に話を聞いた。

ことが難しい。社会福 声も漏れる。社事業も電話相談だけ 育成会は「我が子に だった。 もともと法人格は入 ローガンに3人の親が 所施設を建設するため 「精神薄弱児育成会」 に取得したが、02年にとして立ち上げた団 はすべて手放した。そ 体。精神薄弱という差 の時返上する選択肢も あったと思う。 葉を掲げるほど揺るぎ

破産だけは避けたい として活動は。 今後新たな連合会 ない決意を持ち、知的 障害者の人権回復に向



——なぜ社会福祉法人 格を返上するのか。

収入減が止まらない ためだ。特に2007 年は基本財産要件の1億 円を維持できない。

——事業縮小による存 続は考えなかったか。

今、社会福祉法人に 対しては、正常な団体交渉 であり、政府へ意見 書を届ける役割もきち んと担って行く。 元職員の訴えについて 地域での活動が主役に なるはずだ。政府へ意 見を届ける役割もきち んと担って行く。

——解雇した職員と係 争中のようだが。

元職員の訴えについて 地域での活動が主役に なるはずだ。政府へ意 見を届ける役割もきち んと担って行く。

——会員からは心配の 意義を社会に説明する

——会員からは心配の 意義を社会に説明する